

米 国 にお ける 国 際 児 童 教 育 協 会 大 会 に 関 する 報 告

毎年米国に於て開催される国際児童教育協会（A C E I）の大会が本年度はワシントン市に於て開かれた。その模様がA C E Iの機関誌にのっているが示唆される所が多いのでその大要を記したいと思ふ。この大会には、総計二千二百人の参加者があり、その内訳は、教育者、社会事業家、宗教家、父兄等の各層にわたるものであった。代表者を派遣した国々は米国の他、カナダ、デンマーク、英国、フランス、独逸、ガテマラ、印度、インドネシヤ、ヨルダン、韓国、レバノン、リベリヤ、パキスタン、フィリッピン、スコットランド、スエーデン、泰国の諸国であつた。

今年の大会は開催地がA C E I本部の所在地ワシントン市であつた為、分団協議会は社会見学を主軸とした画期的な新しい趣向を凝らした活動が行われた。即ち Exploring Resources for Work with Children というテーマのもとに児童のための教育的資源を探究するという事が主眼点とされた。

参加者達はそれぞれ希望のグループに分れて約百個所の異なった社会見学を行った。見学はワシントン州に限らず、近くのヴァージニアやメリランド州にも及び、教育、文化、医学、心理学、社会、政府機関の各方面にわたつた。五百人を擁する準備委員会の周到な用意と地域施設との綿密な連絡のもとに此の大規模な視察が予定通

りスムーズに行われた。大会六日間の会期中三日間はこれらの見学に基いた研究や討議がなされた。分団は十一の部門に分れ、次の如きプログラムによって行われた。

第一日。各種の部門に分れ、発題者の講演を聞く。見学の班に分れその準備をする。

第二日。実地見学を行う。この際A C E Iからの解説者及び施設代表者が各グループを案内する。

第三日。見学に関しての協議会を開き、グループ全体の活動のしめくりをする。同時に解説者の補佐を受ける。

次に十一の部門で行われた分団協議の記録を略記してみたいと思ふ。

第一の部門 国際親善を促す資源の探究。

今迄新しい教育は児童を中心とした教育方法を強調して来たが、単に児童を家庭や自分の国と結びつける事丈に止めず、一歩進んで世界そのものが子供達の考えの中心でなければならぬ事を理解させる。この部門の参加者達は見学や協議を通して各民族の間に流れる諸文化及び人間生活の共通性について子供達に考えさせる事の重要性を知つた。

近時交通機関や通信施設が非常に進歩して短時間に世界を一周し

たり各国を容易に訪問し見聞を広める事が出来るようになったが、これに伴って教師達も従来の狭い考え方を改めなければならぬ事を知った。例えば宗教に関しては世界人類を広く包擁する様に考える事を学んだ。又自国に対する愛と忠誠とを更に広い世界に対するものにかけてゆく事を認識した。

見学した施設は次の中二ヶ所宛を選び行われた。

情報局、赤十字社、バン・アメリカン連合会、放送施設、政府教育機関、国立絵画館、博物館、国立地理学会、教育連合会、国会図書館、ギリシヤ正教会の寺院や回教のセンター、カナダ、印度の大使館等。

第二の部門 子供に対する理解を促す資源の探究

近代児童発達に関して多くの研究資料が提供されつつあるが、教師達は単にこれを知っているという丈ではなく、これを如何にして個々の子供に適應してゆくかが大切な点である。

此の部門には三百人余の参加者があり、十二の施設を見学した。主として学校、病院、診療所及び、身体障害者、精神薄弱児を扱う所等であった。その他州の行政を行う所、児童世話課、児童研究所等も見学された。

これらの見学を通してどの様な児童といえども個人として尊重され、又将来最大限の可能性を実現出来るように方向づけられなければならない事を参加者は痛感した。

又分団の各員は次の事項を新しく学んだ。

問題を持っている子供を治療する施設や研究所では殆どが科学者のチームを造ってこれに当たっている。先ず或る子供の問題を設定す

る前に数人の専門家がその子供の発達歴を各方面から調べ、それをプール式に出し合って研究し検討するとあらましの治療法が決めるれ、それに対する子供の反応を見て又検討をする。

このような科学者のチームを持たない一般の教師はどのようにして子供を評価し理解出来るか、これには先ず子供に関するあらゆる事実を集める事である。子供の身体的、情緒的、知的、社会的発達家庭の環境、友達の関係等も最も大切である。学校の累積記録や成績、製作品の蒐集、前担当者との話し合い、家庭訪問、教育日誌等は子供達の進む一步步を評価し正しい前進を助ける為に必要な材料である。

第三の部門 自然科学及び社会教育を促す資源の深究

生きた科学教育を行うためには教師自身が近代生活の充分な科学的知識をもっていなければならない事が強調され、各方面の見学をした。即ち、海軍の観測所、動物園、ワシントン空港、測候所、地理学会、林業相談所、博物館のうち交通及び飛行機の部等。

此の部門の講演者は「我々の自然及び社会教育の目的はどこ迄も自発性や創造性や理解力のある民主的な市民を育成する事にあり、それは人間生活に及ぼす自然の力を知り、人間社会の歴史を学び又相互扶助の経験をすることによって培われる。かくてこそ責任感をもった世界の市民が養われる。」と力説した。

第四の部門 音楽教育を促す資源の深究

発題者であるコロンビヤ大学のピッツ氏は参加者にもパートを取らさせ、どのようにして子供達によき表現力を養う事が出来るかという事を教えた。参加者一同は歌を歌ひ、動作をつけ乍ら、表現

をなす事を試みた。床に坐つて歌の調子に合せてリズムを打ったり、よく知られた曲に歌詞をつけたり、楽器をつかったりした。そして子供を愛し音楽を愛する事から創造的なものが出てくる事をしられた。

子供達の心に直接に触れるものに民謡がある。見学者は国会図書館では長い間民謡の普及に努力して来た事を知った。此処には無数のレコードが蒐集されている。学校がこれを借りたり買ったり出来るようになってゐる。又赤十字社青少年部では各国の児童の歌をテープレコードにおさめたものがあり、外国の学校との間でテープレコードによる歌の交換をする事であつてゐる事を知った。

メリランド大学に見学に行った時此処でも子供達は音楽を耳から聞く喜びよりも実際に肉体的な活動を通じて音楽を味つてゆく事の方に興味のある事実を示された。或る子供が「僕は音楽そのものになりたいんだよ」と云つた様に、子供達は身をもつて感じ、体験して行きたいのである。その他、学生シンフォニーの音楽会や博物館の音楽部等にも出かけ各方面の資料を探し回つた。しかし最も大きい資源はとりも直さず子供自身の中にあるという事実を知つた。発題者が云つた様に「芸術を人に与える事は出来ない。それは人に参加をすすめるもの」であるからである。

第五の部門 美術教育を促す資源の探究

此の部門に於ても子供達の参加が最も重要な事とされている。講演者は次の事を述べてゐる。

「創造的美術教育は算数や物理を教える時の様に順序を追つて段階的に教えるものとは限らない。故に教師は前任者の例を踏む事な

く、独特の方法を創造する事が出来る。美術とは生命そのものであつて、或る特定の時と場の生きた姿を表している。有史以前洞窟に住んでいた人達の生き生きとした絵はその一例である。美術教育に当つて限らない資源が私達の周囲にある。色彩、自然、地域社会、児童の製作品、写真、スライド、そして子供達の可能性を表現するあらゆる媒介物等々あげれば限らない。」と。

此のグループの人達はワシントン市内にある有名な美術館や画廊を見て歩いた。教育丈にとどまらず、美術全般にわたつて興味を湧き起すたのしい見学であつた。

第六の部門 文学教育を促がす資源の探究

見学は児童の文学教育を中心において、図書館、児童の書籍を扱う印刷事業、児童博物館等を対照として行われた。或る展示会では小学生の児童達が有名な童話をもとに造つた人形芝居を実際に操作して見せた。その時表わされた驚くばかりの独創性と器用さと優れた評価の態度に見学の大人達は舌を巻いた。

第七の部門 ラジオとテレビジョンの教育を促がす資源の探究

発題者の講演の要旨は次の通りである。
ラジオ及びテレビに見られる教育的プログラムとその発達
プログラムを提供するに当つての機構
プログラムの内容

プログラムの向上をはかる研究

見学は実際に放送を行っているヴォイス、オヴ、アメリカその他に出かけ、又プログラムの内容を研究する見学として国会図書館、学校等を見学した。それから見学の総まとめとしてこの部門の解説

者のパネルがあり、見学の報告が行われた。パネルに引続き聴衆者一同はバズ、セションを聞き質問を用意した。

質問の最も関心の高いものは児童のプログラムは誰の責任に於て作られ又高められて行くかという事であった。これは種々論議の後どのように熱心な父兄達の団体があつたとしても実際にプログラムを作製するのは専門家とその良識にまかせるべきであるという結論に達した。父兄や教師達は既に行われているプログラムのうちで良いものを賞讃し、或は団体の力を借りて与論を高め、又放送機関に呼びかける事に努力を払う事が大切であり、子供達がラジオやテレビを見る時は批判的態度を持って見るようにし、正しい判断が出来るように指導する事が望ましいという事が強調された。

よいプログラムの一例として小学生に適した伝記物のシリーズが示された。これに附随して例えば西部開拓に関する書籍、スライド、レコード等を併用する事がよいとされた。この部門の最後の催しは或る学校当事者が参与して作ったテレビプログラムを全員で実際に見てこれを批判し合つた。又理想的なプログラムとして次の標準がかかげられた。

- 1 好ましい態度、建設的な人間関係を教えるもの。
- 2 想像力を養うもの。
- 3 独創的活動を促すもの。
- 4 童話、書籍に対して関心を持たせるもの。
- 5 精神的価値を重くみるもの。

第八の部門 演劇教育を促す資源の探究

講演者のエマ・シューイ教授は生き生きとしたしかも寛いだ話しぶ

りのうちに実際のな面でよい指導をされた。

即ち「劇遊びに何よりも必要な事は創造的な頭をもつた教師である。既成のものにたよるのではなく、たえず成長しつつかある活気に満ちた雰囲気の中から新しいものを創り出して行く。教師と子供が共同で計画をする。一つの事を異つたやり方でする方法を考え、色々と言ひ合ひをする。子供達に過去の経験を思ひ起させ、劇、詩、手紙、お話し等につかうように導く……」等。

見学は方々の学校に対して行われた。或る幼稚園の子供達はゆつたりとした楽しい雰囲気の中に過していた。教師との間のわだかまりのない話し合ひは、自由な創造性を生み出し、それが活気ある劇遊びへと進んだ。ままごと、積木遊び等を通して面白い表現が見られた。

一部の者は精神薄弱児を扱っている施設や各種の病院、演劇センター等に出かけた。そして劇遊び普通の幼児と同様に、障害のある子供に取つても、如何に大切なものであるかを知つた。そこには自分を忘れて、想像の世界に表現の自由をたのしむ子供達の伸び伸びとした姿が見られた。

(第九及び第十の部門は紙面の都合で省略)

第十一の部門 両親と教師の提携について学校側と父兄側とがど

ういう面で提携して教育の効果をあげているかを八つのグループに分れて見学した。父兄達は或る所では学校と地域社会で行っている天然資源管理事業に協力したり、又ある学校では図書部で先生達と協力していた。他の所では社会科の時間に中国人の母親が本国の服装を着て生徒に話しをしていた。それは教科書にまさる有益な資料

である。父兄が見学や遠足の下相談に携わったり、学校新聞、屋展会、健康相談、おべんとうの時間等に手をかしている所もあった。

此の部門では教師と父兄の間に交流が正しく行われるために教師達は対人関係についてもよく研究し、父兄の感情をよく理解する事に努め、又父兄と話しをする時は専門的な言葉をさげ平易な言葉を用いる様にすべきである事、又父兄と協力すると云つても教師の仕事と父兄のそれとの間に確かに一線を引く事を忘れてはならない事業が討議された。

結論として子供の教育という共通の目的のために教師のみでなく多くの人々のチーム・ワークが必要であるという事になった。

以上大会中三日間の見学と分団協議に重点をおいて記した。

此の他三つの講演会、国際親善の催し、役員選挙、報告、議事等を含む総会、各種の委員会、宗教教育或は協同ナースリースクール等の部門に分れる各部会、州別による集会、シンポジウム、展示会、等々無数の会合が開かれ、朝食の時間迄使用する盛況ぶりであった。

講演も分団協議も創造性を養う教育こそ将来最も豊かな生活をもたらすものである事を等しく強調している。又これと同時に教師達の教養と人間性を高める事の必然性も説かれた。

大会終了の講演を行った米国教育連合会のウィルソン氏は「今日の世界を造る教育」と題して次の様に述べている。

「一九七〇年迄にオートメーションの過剰は米国に新しい世界を来すであろう。職を持たない者が多くなり、一週の労働日はずつと縮少されるから余暇を正しく使える創造的人間を教育する必要がある。その為変動極らない社会の姿を洞察して行かなければならない。……」
尚、一九五七年の大会は米国ロサンゼルス市に於て開催される予定である。

(黒田成子記)

幼児の教育 第五十五巻 第十号

定価五十円

昭和三十一年九月二十五日印刷

昭和三十一年十月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願ひ致します。